

編集後記

会報 16 号を予定どおり 2011 年 12 月末にホームページに掲載いたしました。皆様ぜひお読みください。今回の会報では、特集として「東日本大震災による農林水産業の被害の実態と復興のシナリオ」を取り上げました。日本農学アカデミーでは 2011 年 6 月 1 日に（財）農学会と共同主催で公開シンポジウム「消費者の不安に農学者が答える」を、7 月 9 日には実践農学会と共同主催で公開シンポジウム「東日本大震災の被害の実態と復興のシナリオ」を、また 7 月 16 日には総会後のミニシンポジウムとして公開で「東日本大震災調査研究報告」を開催いたしました。

今回の特集には、上記 3 シンポジウムの講演者の方々を中心にご執筆をお願いいたしました。執筆を快くお引き受けいただきました方々に感謝申し上げます。今回の特集が、東日本大震災による地震・津波と放射能汚染による農林水産業の被害からの復興に少しでもお役にたてれば幸いです。

3 月 11 日の大震災の時には、私は勤務先である麴町一番町のビルの 6 F に居りましたが、これまで経験したことが無い大きな揺れにビックリしました。通勤手段が全て止まったため埼玉県の自宅まで 5 時間弱かけて歩いて帰らざるを得ませんでした。法事で山形に向かった妻とは連絡が出来なくなり心配しましたが、新幹線が福島駅に着いたとたんに地震に遭い、危険だからと駅から出され西口のスーパーのフロアで一夜をあかすことになったとの連絡がやっと取れ、安心しました。その後、新潟・関越道経由のバスで翌日の夜中に戻ってきました。

私は後日、勤め先から 2 度ほど徒歩で自宅まで帰ってみましたが、当時と比して、スーパーで夕食用におにぎりを買うことは出来ましたが、歩道を歩いて帰宅する人は誰もいなく、大変寂しい思いをしましたが、最初とほぼ同じ 5 時間弱で帰れたので、自信ができました。

しかし、高校生の頃は山岳部において、重い荷物を背負って 8 時間ほどの歩行は何でもなかったのに比べると、やはり年を取ったなと思わざるを得ませんでした。3 月 11 日は、遠方の地震でしたので、歩いて帰れましたが、これが直下型地震でしたら、おそらく不可能であったろうと思わざるを得ません。

会報 17 号にも同様の特集を企画しております。どうぞご期待ください。

(會田 勝美)